

教会成長研究院

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (8)

二〇一五年七月二十八日付で、日本統一教会（現家庭連合）元会長の江利川安榮氏が「退会届」を郵送してきました。そこには、文亨進様を中心とした米国のサンクチュアリ教会の下で、日本サンクチュアリ教会総会長兼協会長として出発するとありました。

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆われていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。これらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、誌面の都合上、文字数の制限があるため、詳しくは「真の父母様宣布文サイト (<http://trueparents.jp/>)」の掲載文や映像をごらんください。（教会成長研究院）

注・本文中、真の父母様のみ言は「青色」で、サンクチュアリ教会側の主張は「茶色」で色分けしています。

【16】「漢南洞の父母様の写真を全部下ろして、お母様の写真だけを掲げさせた」という批判にCSJ

サンクチュアリ教会側の人たちは、「漢南洞の父母様の写真を全部下ろして、お母様の写真だけを掲げさせた」と批判しています。同調する人のブログに

は、基元節のお写真が掲げられた場面を紹介し【写真1参照】、「この写真は、韓国ソウル龍山区漢南洞の文家所有の建物で行なわれた礼拝（聖和した真の子女追悼礼拝）」の「コマである。……朴インソプ氏の上に飾られている肖像画をよく見てもらいたい。韓鶴子氏だけで、文鮮明氏がいない！鮮が消されているのだ」と批判しています。

（注）2枚の写真を見比べてみると、サンクチュアリ教会側が批判に用いている写真に写ってはいませんが、お供え物が並べられている正面側には、真の父母様のお写真が掲げられていることがわかります



写真5



写真3



写真6



写真4



写真7



写真1



写真2

この批判に対して応答します。これは事実確認せずに行っている無責任な批判です。実際には、漢南洞（漢南国際研修院）の各部屋に真の父母様のお写真が飾られています。【写真2〜7参照】私たちは、このような事実に対する批判に惑わされてはなりません。

【17】「家庭連合」のマークに対する批判について

サンクチュアリ教会側の人たちは、家庭連合マークに対し、それがヨハネの黙示録一七章に出てくる「赤い獣」を表すマークであると批判します。ヨハネの黙示録一七章三節には「ひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかざかの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった」と書かれています。それが家庭連合マークだと主張しているのです。

家庭連合マークは、統一マークと同様に、真のお父様が定められたり、天的な公認を受けたものです。事実、二〇〇三年二月六日、真のお父様が「神様の結婚式」と語られた、いわゆる「二度目の聖婚式」において、真の父母様は統一マークと共に家庭連合マークを掲げておられます【写真8参照】。家庭連合マークを批判することは、それを定められた真のお父様を批判することにほかなりません。



写真 8

【18】その他の批判を含めて、総合的に留意すべきこと

一、お父様の願いは、お母様を絶対中心として一つになること  
 「伝統はただ一つ！真のお父様を中心として！他の誰かの、どんな話にも影響されてはいけません。先生が教えた御言と先生の原理の御言以外には、どんな話にも従ってはならないのです。今、先生を中心としてお母様を立てました。先生が霊界に行ったならば、お母様を絶対中

心として、絶対的に一つにならなければなりません。今、お母様が行く道は、お父様が今まで立てた御言と説教集を中心として、行かなければならないのです」(『祝福』一九九五年夏季号、六八ページ)

「私が死んでも(お母様には)統一教会を導くことができる能力もあるのです、お母様が説教する時が来るのです。……そのような時は、(お母様に)絶対服従しなくてはなりません。……一度決心すれば、最後まで自己一代でこの複雑な恨の峠をすべて清算するという決心が、私よりもお母様がもっと強いのです。先生は、今七十を超えたので、ごみ箱の近くに行きましたが、お母様は、今ごみ箱を收拾してそれをすべて掃除することができる主人になったので、先生よりもお母様をもっと重要視することができると統一教会の食口になれば福を受けるのです」(『真

の御父母様の生涯路程⑩』三五―三五二ページ)

二、真のお母様は「第二教主」

「これからは先生がいなくても、お母様一人のみ旨に何の支障もないのです。今までは、女性が天地を代表する摂理の代表者として立つことはできなかったのですが、父母の愛と一体的理想を中心として、初めてお母様を中心とする女性全体の解放圏が地上に宣布されたのです。……真の父母の聖婚から三十年たって女性解放を宣布したというのです。ですから、先生が一人でいても真の父母様の代身であり、お母様が一人でいても真の父母様の代身です。『レバランド・ムーンが古希を過ぎて七十を越えたので後継者が現れないのか?』そんな言葉はやめなさい。……ですから、先生が第一教主、その次に、お母様は第二教主だということですよ。』(『マルスム選集二〇一―二二六

「お母様を中心として皆さんが一体になっていかなければならない時が来しました。もう先生がいなくても、お母様が代わりにできる特権を許諾したというのです。お父様がいないときは、お母様のことを思わなければなりません。そのように理解して、先生の代わりにお母様に侍る心を持ち、祈禱もそのようにするのです。今までは先生を愛してきましたが、これからはお母様を愛さなければなりません。これからはお母様の時代に入って、いくことを理解して、特に女性たちはそのようにしなければなりません。ここにおいて、先生が第一教主であれば、お母様は第二教主であると世界的に宣布し、天地に宣布します」(『真の父母の絶対価値と氏族的メシヤの道』一一六―一一七ページ)

「お母様は私の影のようですよ。付いて回る影のようなので、私

は実体をもった主体の教主であり、お母様は対象の教主です。それで、私は第一教主、お母様は第二教主です。何を中心としてですか。愛を中心としてそうだと「真の父母は永遠に二組である」(同、一一六ページ)

「先生が霊界に行ったとしても、お母様が地上にいれば、霊界と地上界の統一圏ができるので、いつでもお母様が地上に来て一緒に暮らすことができるとです。今、統一教会のメンバーの中にそのようなカップルがたくさんいます。一緒に生活しているというのです。……霊界に行ったとしても、地上にいる人と一緒に生活することができるとです」(同、一一七ページ)

真のお父様は、聖和後、真のお母様のところに降りてこれら共に生活すると公式的に宣言しておられました。真の子女様のところに降りてこれらと語ら

れたではありません。私たちがは、お父様が霊界から降りてこられて生活すると語られたお母様を中心一体化していかなければなりません。

三、真の父母は永遠に二組である

「真の父母様は一組だけですよ。今、この時の一度だけだということです。過去にもいなかったのであり、未来にもいません。真の父母様が肉身をもって実体で存在するのは、この時だけだということです。永遠の中でたった一度ですよ」(『マルスム選集二四六―四八四』)

「先生は、以前にも存在しなかったのであり、これからも存在しません。永遠にこの時しかないというのです。真の父母が二組もいることができますか。絶対に一組ですよ。先生が霊界に行けば終わりです。永遠に存在しません。だからとって、この思想がなくなるのでしょうか

か。そうではありません。先生が教えたあらゆることは、天下の真理として永遠に残るのです」(同、二二九―二六一)

「真の父母が二組いることはできません。……人類の父母が一度現れるのが、歴史の願いであり……摂理の願いであるために、その父母が現れる時は、あとにも先にもない時であり、歴史上に一度しかない頂上なのです」(『八大教材・教本『天聖經』二二〇―二二二ページ』)

「真の父母というのは一組しかないのです。人類の一組しかない父母だということです。歴史に初めて登場した、空前絶後の真の父母が顕現した時代が成約時代だということです」(同、二四〇―二四二ページ)

「真の父母というの、二組はあり得ません。一組しかないのです。過去には存在せず、

現在に一組だけ存在し、後代にも存在しません。歴史上に一組しかない父母の名をもつ真の父母が現れたという事実は、歴史上、これ以上に喜べることはない出来事です」(『マルスム選集二六六―二五一ページ』)

このように、真の父母は永遠に一組しかおられません。それゆえ、真のお父様は「後継者……そんな言葉はやめなさい」と語っておられるのです。『原理講論』に、「イエス以後においては、イエスと聖霊とが、直接、信徒たちを導かれた」(四六九ページ)とあるように、二千年のキリスト教は、霊的眞の父母であられるイエス様と聖霊が一貫して信徒を導きました。未来永劫にわたる天一国においては、空前絶後の眞の父母である文鮮明先生、韓鶴子夫人が一貫して導いていかれることを、私たちは明確に理解しておかなければなりません。